


令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

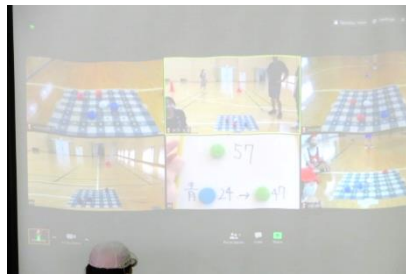
- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 愛媛県 】

学校名【 鬼北町立好藤小学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	鬼北町立好藤小学校 4～6年生 合計15名 ※一部、全校児童33名での活動あり
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育、総合的な学習の時間) ② 行事名 (学習発表会) ③ その他 (愛媛大学教育学部、愛媛大学教育学部附属小・特別支援学校との交流) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	① 誰もがスポーツに取り組み、その楽しさを味わうことのできるよさを感じ取らせる。 ② スポーツの楽しさや上達に向けた努力のよさを感じ取らせ、自分もスポーツに取り組もうとする意欲を高める。 ③ パラスポーツ体験を通して、共生社会について考える。
5 取組内容	(1) <u>オリンピック・パラリンピック新聞づくり</u> ○ 5～6月実施<5・6年生> (総合) ・ オリンピック・パラリンピックの歴史や競技等に関する調べ学習を行い、新聞にまとめた。 ・ 新聞を掲示し、他学年の児童や保護者に紹介・啓発した。  (2) <u>愛媛大学教育学部と連携したパラリンピック種目の体験及び交流活動</u> ○ 6月～12月実施<4・5・6年生> (体育) ・ 愛媛大学教育学部生とのリモートボッチャ交流会の実施によって、パラスポーツへの意識付けを行った。

- ・ 附属小・附属特別支援学校とリモートボッチャ交流会を実施し、誰もがスポーツを楽しむことへの関心を高めた。



(3) アスリートによるスポーツ体験教室・出前授業

○ 11月26日(金)実施<全校児童>(体育)

- ・ 体操競技の愛媛県スポーツ専門員3名による、マット・跳び箱運動の出前授業を実施した。
- ・ 専門性の高い、要点を抑えた指導をしていただいた。



○ 12月6日(月)実施<全校児童>(体育)

- ・ 愛媛マダリンパイレーツの選手3名による、野球体験教室を実施した。
- ・ 「投げる」「打つ」楽しさを味わうことに重点を置いた体験教室を行った。





(4) 車いすバスケットボールの選手との交流会

○ 12月17日(金)実施<全校児童>(体育)

- ・ 愛媛車いすバスケットボールクラブの選手2名、マネージャー1名との交流会を実施した。
- ・ 全校児童を対象に、車いすバスケットボールに関する講演を、4・5・6年生を対象に、車いすバスケットボールの体験会を実施した。



	<p>(5) 学習発表会でのオリパラ学習の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 11月21日(日)実施<発表:5・6年生><全校児童、保護者、地域住民対象>(行事、総合) ・ 学習してきたことをニュース番組風にまとめ、発表した。 ・ 写真資料を見せるだけでなく、ピクトグラムのパントマイムをしたり、クイズ形式の発表をしたりするなど、分かりやすく工夫して伝えた。 ・ 会場に、本校卒業生の聖火ランナーが実際に使用した聖火リレートーチ等を展示し、オリンピックの雰囲気盛り上げた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリンピックやパラリンピックに関して、興味・関心の少なかった児童もいたが、学習を通して、意識の高まりが感じられた。 ○ スポーツ専門員や現役野球選手、車いすバスケットボールプレイヤーなど、実際に競技をされている方の講話や実演、実技指導により、児童が本物のすばらしさに触れることができた。 ○ 児童の実態に即した丁寧な指導をしてもらったことで、技能の向上やスポーツに親しもうという意識の高揚が見られた。 ○ ボッチャや車いすバスケットボールといったパラスポーツの体験を通して、「スポーツは誰もが楽しめるものであること」や、「誰もがスポーツを楽しむことのよさ」に気付き、感想にまとめる児童もいるなど、「共生社会」の実現に向けた思いを高めることができた。
<p>7 実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童だけ、学校だけの活動にならないよう、学習発表会で保護者や地域住民に紹介する場を持ったり、ケーブルテレビに取材に来てもらったりするなど、学校外への紹介や啓発を意識した。学校のホームページも活用した。 ○ 実体験に基づいた学習が進められるよう、体験型の学習を計画した。 ○ 愛媛大学教育学部に協力していただき、リモート学習を取り入れた取組や、継続的な交流学習を模索した。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習発表会等で発表するなど、啓発活動を大切にしてきたが、児童から大人へと、学びの場が広がるよう、大人への参加呼び掛けや内容の工夫をしていけばよいと思う。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京オリンピック・パラリンピックが終わったことで、学習が一段落ついたが、児童の体力向上や、共生社会の実現といった面から、このオリパラ教育に触れていくことで、新たな取組ができるのではないか。 ○ この事業をきっかけにできた繋がりの中で、今後も継続できることを模索し、できることを続けていきたい。